

令和4年度 図書館だより 〈第3号〉

令和4年7月19日(火) 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

もうすぐ夏休みが始まります。夏休み中は時間もたっぷりあるので、さまざまな本に出会うチャンスです！夏休み期間限定の貸出特典もあります。ぜひ図書室に足を運び、多くの本を手にとってみてください。そして、全員が図書室で本を借りて、読書の思い出をつくりましょう。図書室の特設コーナーには、読書感想文の課題図書をはじめ、全国学校図書館協議会が推薦する夏休みの本（緑陰図書）、群馬県教育委員会発行の「本の扉をあけてみよう～ぐんまの小中学生に贈る131冊～」冊子を用意しました。

夏休み中の開館日と開館時間

7	22	金	9:00～16:30	8	10	水	11:00～16:30
	23	土			11	木	
	24	日			12	金	
	25	月	9:00～16:30		13	土	
	26	火	9:00～16:30		14	日	
	27	水	9:00～16:30		15	月	
	28	木	9:00～16:30		16	火	
	29	金	9:00～16:30		17	水	11:00～16:30
	30	土			18	木	11:00～16:30
	31	日			19	金	11:00～16:30
8	1	月			20	土	
	2	火	9:00～16:30		21	日	
	3	水	9:00～16:30		22	月	9:00～16:30
	4	木	9:00～16:30		23	火	9:00～16:30
	5	金	9:00～16:30		24	水	9:00～16:30
	6	土			25	木	9:00～16:30
	7	日			26	金	9:00～16:30
	8	月	11:00～16:30		27	土	
	9	火	11:00～16:30		28	日	



高校生向けの本もたくさん紹介されています。

* 今後変更になることもありますので、学校Webページまたは図書室入口の掲示を確認してください。

夏休み特別貸出の実施

夏休み前に1人10冊まで借りられる特別貸出を実施します。返却日は夏休み明けの9月3日(金)です。全員が図書室で本を借りて、自宅で読書しましょう。そして、今年もまたwithコロナの夏を乗り切りましょう！また、夏休み前に督促状を発行します。連絡もらったひとは、早めに返却してください。

第55回・夏休みの本（緑陰図書）

全国学校図書館協議会が選定した、今年の夏休みに子どもたちに読んで欲しい本が決まりました。令和3年4月から令和4年3月までに出版された図書から厳選したもので、高校生向けの8冊を紹介します。

『蛭と月の真ん中で』

河邊徹／著 ポプラ社

写真学科のある東京の大学に進学して3年。親しかった友人の急変でお金も居場所もなくした匠海は、昔父が蛭の写真を撮った長野県辰野にやってきました。蛭に導かれ一人の女性、明里と出会ったことをきっかけにしばらく滞在することになり、好きな写真を撮りながら人々と交流する日々の暮らしの中で多くのことを学んでいく。蛭と月の真ん中で匠海は何を見、何を感じたのか？自分探しの爽やかな青春小説。



『7.5グラムの奇跡』

砥上裕将／著 講談社

7.5グラムとは眼球の重さのことである。目で物を見る。日頃ごく当たり前にやっていることが、実は奇跡と言える行為だとしたら…。主人公・野宮恭一は、新人の視能訓練士。日々、眼科医院のスタッフや患者と接するうちに「見える」ことの大切さに気づき、一人前になつく姿が5つの短編として描かれ、一連の成長物語となっている。水墨画家でもある著者の文章は、心で物を見ているようで細やかで巧みである。



『ぼくたちのスープ運動 小さな思いやりが世界を変える！』

ベン・デイヴィス／作 評論社

病気療養中の少年ジョーダンは、一家で引っ越してきた町で、同学年のウィルが嫌がらせをしたホームレスのテントの前に、ママの作ったスープを置いた。それは入院中に病室で知り合った少女リオとの約束からだった。約束とは、ミツヴァー、すなわち人にいいことをすること。その行動はインターネットを通して広がり「スープ運動」へと発展し…。小さな思いやりが少しずつ人の心を変え、世界を変えていく感動の物語。



『13枚のピンぼけ写真』

キアラ・カルミネーティ／作 岩波書

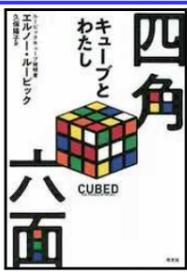
第一次世界大戦下の北イタリア。少女イオランダの父と兄は戦地に赴き、母はスパイの疑いをかけられ逮捕されてしまう。幼い妹とともに故郷を離れ、母から渡されたメモを頼りにアデーレおばさんのもとに身を寄せるが…。家族の問題を解きほぐし、生きる力を自分の手でつかみとっていく姿が感動を呼ぶ。章ごとに挟まれる「ピンぼけ写真」に画像はない。そこに添えられた説明文に想像力をかき立てられる。



『四角六面 キューブとわたし』

エルノー・ルービック／著 光文社

1980年にハンガリーで登場し、世界の7人に1人が遊んだと言われるルービックキューブ。今や世界大会も開催されている。その製作者のエルノー・ルービック（自らを発見者という）の自伝である。自分の生い立ち、興味深い幾何学問題との出会い、キューブ製作過程以外にも、創造性、教育、建築、遊び心、美など、自由に話題が広がっていく。まるでキューブの各面を合わせていくのと同じような感覚で読み進められる。



『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂康之、林公代／著 イースト・プレス

水産高校で学ぶ生徒たちが14年の歳月をかけて夢をつなぎ、宇宙食としての「さばの缶づめ」を作り上げ、宇宙飛行士の野口聡一さんが宇宙で実際に食べるところまでを追ったノンフィクション。宇宙への挑戦は順調に進んだわけではない。生徒の活動を見守り続けた小坂教諭、HACCP認証を導いた高鳥氏、地域の支え、JAXAの専門家の助言もあって実現に結び付いた。学ぶとはどういうことか。学校はどうあるべきかも考えさせられる。



『難民に希望の光を 真の国際人緒方貞子の生き方』

中村恵／著 平凡社

国連難民高等弁務官として10年にわたって難民のために全力を注いだ緒方貞子。UNHCR退任後の緒方にパーソナル・アシスタントとして寄り添った著者が綴ったノンフィクション。前例にとらわれず「難民の命を守る」基本原則を徹底した意思と行動力、正しい判断を裏付ける「現場主義」の姿勢は、世界情勢の先が見えない昨今、中高生の指針となる。「難民」について深く知ることで、できることは何かが見えてくる。



『海獣学者、クジラを解剖する。』

田島木綿子／著 山と溪谷社

日本では、年間に300頭余りのクジラやイルカが打ち上げられている。急いで解剖して各種調査を行い、将来の骨格標本を確保するために土に埋める過程などを具体的に紹介している。打ち上げられたクジラがなぜ死んだのか、なぜこの場所に漂着したのかなどの視点が、野生の哺乳類の死因を究明し、生育環境を推測する手がかりとなる。著者は、海洋プラスチックが海の哺乳類や生物全体に及ぼす悪影響に警鐘を鳴らす。



* 紹介文は「学校図書館速報版6月15日号」p30・31より引用しました。

全国高等学校ビブリオバトル2022 群馬県大会参加者募集

今年度も秋の読書週間中に上記の大会が開催されます。ビブリオバトルは、お気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う知的書評合戦です。図書室の掲示板にポスターと開催要項を掲示しました。参加を希望する生徒は、9月22日(木)までに本校の図書室まで申し込みをお願いします。

日時：令和4年11月5日(土) 会場：群馬県立図書館(前橋市日吉町1-9-1)